

# フォレストニュース

3月20日（春分の日）に1日環境セミナーが開催されました。川崎市

市の大山街道ふるさと館で、高津啓洋理事長が、「環境問題と植樹の重要性」について講義を担当しました。当日は風雨が激しいにもかかわらず、日ごろから環境問題に関心を持たれた、23人の方が参加しました。



植樹活動の重要性を確認しました

講演要旨は、①地球温暖化は人間活動（炭酸ガスなどの温室効果ガスの排出）による影響が大であること。2007年、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が「温暖化は人間活動による可能性が非常に高い」との報告書をさまざまな科学的裏づけを持って発表。世界がこれを認めたため、同年、ノーベル平和賞を受賞しました。

②炭酸ガスを吸収・固定する森林が温暖化をストップ。本来の森林は、高木、亜高木、低木、下草の立体的多層群落を形成、緑の表面積は、単層群落であるゴルフ場などの30倍あります。また、防音、防塵、空気や水の浄化、保水などの環境保全機能も30倍以上です。温暖化の元凶とされている炭酸ガスを吸収・固定する能力も30倍以上です。まさに、植樹による森林再生が温暖化に対する抜本的対応となります。その後、傘をさしながら、樹木観察会を行いました。

次回の1日環境セミナーは4月20

日（日）午後2時から、5月は17日（土）10時～15時まで、参加を希望の方はご連絡ください。

## 栄養バランスよいモリンガ

モリンガは、ニーム（No. 2に既報）と並んで有用樹木のひとつとして、国連も関心を持っていますが、私たちはパンタナール地域での植樹に力を注いでいます。

モリンガは成長が早く、6ヶ月で4メートルにもなります。食用としての栄養バランスが大変よく、原産地インドでは万病の予防薬とまで言われています。その理由は、あらゆる栄養価が豊富で、バランスが良いことがあげられます。一例を挙げますと。

カルシウム（骨の主要成分）：牛乳の20倍  
鉄分（酸素と二酸化炭素を運搬する血液中のヘモグロビンに重要）：ほうれん草の30倍



モリンガの葉はバランス栄養素の宝庫

ガンマ（ $\gamma$ ）アミノ酸＝ギャバ（老化防止・高血圧・糖尿病に効果あり）：発芽玄米の30倍  
カリウム（細胞の活性維持）：牛乳の60倍  
マグネシウム（細胞のエネルギー消費と蓄積に大切な働き）：卵の35倍

アミノ酸（生命維持の役割）：黒酢の2倍  
ビタミンA：ほうれん草の12倍  
ビタミンB1：豚肉の4倍  
ビタミンB2：マイワシの50倍  
ビタミンB3：ピーナッツの50倍  
ビタミンC：にんじんの4倍  
ビタミンE：菜種油の6倍  
ポリフェノール：赤ワインの8倍

（モリンガの正式名称は：モリンガ・オレイフェラ。日本の学術名は：わさびの木）

モリンガは捨てるところがありません。葉、種、花、若い鞘（さや）葉は、ジュースにしたり、サラダに入れたり。野菜として活用。



モリンガの成長は早く、どの木もよく育つ。 1/5

種は、油、食品、搾りかすで、水の浄化。花は、強壮剤にと活用範囲は広がります。

## 私達の活動

パンタナールでの植樹はまだまだ、緒に着いたばかりですが、このモリンガは、日本の樹木の6倍以上の炭酸ガスの吸収と、酸素の供給が図られています。今後ますます、炭酸ガス排出規制によつての地球温暖化ストップが必要ですが、本質的には、植樹拡大によつて炭酸ガスを酸素に換える働きが必要です。次号はバイオエネルギーとして注目される「ジャトロファ」を特集します。

## NPO地球の緑を守る会

〒180-0023  
武蔵野市境南町2-1-22和田ビル2階B  
電話 0422-39-3324  
ファックス 0422-39-3344